



K中通信

学校だより 第2号
平成28年4月28日
横浜市立軽井沢中学校

学校ホームページアドレス

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

学校教育目標 『 心豊かにたくましく生きる生徒の
育成をめざします 』

新年度の始まりにあたって

校長 大村 眞理子

入学式には花が満開だった桜の樹は、今はもう、若葉が盛りになっています。新年度が始まって、授業も本格的に始まり、1年生も中学校生活に少しずつ慣れ、5月末の遠足に向けて実行委員会を中心に取組を始めています。2・3年生は、昨年度末から取り組んできた自然教室・修学旅行に向けて各自の意識も高まりつつあります。

先日、熊本地方を中心に大きな地震があり、甚大な被害が出ています。犠牲になられた方々へお悔み申し上げるとともに被災地の皆様が一日も早く平穏な日々を取り戻せるよう願ってやみません。テレビや新聞などで避難所の様子の一部を知るたびに胸が痛むと同時に、発災した時、K中ではどのような対応ができるだろうかと考えます。

軽井沢中学校地域防災拠点管理運営委員会の皆様とは、以前より様々なお話をしています。本校の広い体育館、屋外に独立した形で設置されているプロパンガス、スロープやエレベーターなど設備としてはとても恵まれています。その時に十分機能するかを検証していく必要性を感じます。また、管理運営委員会では2年連続で「クロスロード」という発災時の対応についてのゲームを行いました。たとえば「避難所に食糧が到着したが、避難者の人数の半分しか個数がない。次は数時間後に搬入される予定である。」という場面設定で、すぐに配付するか、しないかを選び、それについて各自意見を出し合うというものです。様々な意見が出されますが、実際の現場ではどんどん結論を出して動いていかなければなりません。事前に多くの場面の想定をして対応を考えておくことも必要ですが、実際では状況も異なり、難しいこともあるだろうと思いました。

学校の教職員は「学校再開班」に所属しています。子どもたちにとって、早く「学校」が始まるのが安心や安定につながると考えています。危険がないと判断できたら早い時期に学校を再開していきたいと考えておりますので地域の皆様にはぜひ、御協力をお願いいたします。そのためにも、学校として地域防災に日頃から関わらせていただき、万が一に備えて共通の認識を持てるようにしてまいります。K中には「災害用地下給水タンク」はありません。「緊急給水栓」はありますが発災後すぐに使えるものではなく、数日してから水道局の職員の方が開栓するものです。したがって、水については各ご家庭でご用意いただくことになります。

想定外の出来事がいつなんどきあるかわかりません。その場合でも保護者や地域の皆様と協力して対応してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。